

三島市

地形概況

箱根火山外輪山西斜面と丘陵地、黄瀬川扇状地と大場川や狩野川ぞいの三角州性低地、三島溶岩流台地の末端部などからなる。火山斜面は下刻が進むが緩斜面の面積も広い。境川・玉川など扇状地を下刻した流路をもつ。湧水池も多い。

地質概況

東部の箱根火山古期外輪山は玄武岩質溶岩からなり、山麓部に火山灰や軽石流の堆積による斜面もみられる。三島溶岩流の形成した台地は黄瀬川の河谷を埋積して、分布する。黄瀬川下流の扇状地砂礫層、狩野川にそう泥質層の沖積地も広い。

気象概況

年平均気温が 15.3°Cで、月平均最高気温 30.6°C、月最低-0.5°Cと、県内では温度較差が大きい。年平均降水量は 2,040mm(三島)と比較的小さく、6月から9月にかけて全降水量の 44%が降る。年平均日照時間数が県内でも多く、1年の 54%が晴れの日である。

災害事例 地震

- 1996年3月7日(平成8年)山梨県東部の地震 M=5.8
山梨県東部が震源で、河口湖で震度5を記録した。三島市で震度4を記録している。三島市では16戸の住宅で瓦が落下するなどの被害が出た。
- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震 M=7.9
県中・西部で大被害を生じたが、伊豆では被害は少なく、三島での震度も4とされている。
- 1930年11月26日(昭和5年)北伊豆地震 M=7.3
丹那断層を生じた地震で、伊豆北部を中心に大きい被害が出た。当時の町村別の被害は三島町死者7人、負傷者58人、住家全潰103戸、半潰605戸、北上村負傷者2人、全潰16戸、半潰167戸、錦田村死者7人、負傷者6人、全潰89戸、半潰298戸、中郷村死者11人、負傷者49人、全潰128戸、半潰225戸などであり、合計、死者25人、負傷者115人、全潰336戸、半潰1,295戸に達した。また荒廃林地は15町歩で、中郷村では火災により6戸が全焼した。また錦田村で一家5人生き埋めとなった。三島での震度は6である。
- 1923年9月1日(大正12年)関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震であるが、当地では三島町で2人、中郷村で2人の死者が出た。また家屋の被害は全潰三島町で13戸(0.4%)、北上村で2戸(0.5%)、中郷村で33戸(4.2%)、錦田村で9戸(1.3%)などである。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
震度は、三島・塚原新田・徳倉で7、沢地・一町田で6~7、川原ヶ谷で6、玉川・平田で4と推定され、地域によってかなりの違いが認められる。被害は総家数1,078軒のうち、潰986軒、大破47軒、土蔵潰大破248軒とほとんど全滅に近い。三島

大明神の境内本社末社皆潰れまた、3 個所の地割から熱湯ふき出る、といった記録もある。

- 1853 年 3 月 11 日 (嘉永 8 年) M=6.7
小田原付近の地震。三島でも損所ありという。
- 1707 年 10 月 28 日 (宝永 4 年) 宝永地震 M=8.4
三島での震度は 4 程度とされている。安政東海地震の 1 つ前の東海地震。
- 1633 年 3 月 10 日 (寛永 10 年)
小田原付近を中心に被害があったが、三島でも家崩れ、地割れができたという。

災害事例 台風

- 1974 年 7 月 7 日 (昭和 49 年) 台風 8 号(七夕豪雨)
全県下に被害を及ぼしたが、三島での被害は全壊 3 戸、半壊 5 戸、床上浸水 305 戸、床下浸水 1,111 戸、道路決壊 4 個所、山(崖)崩 19 個所などである。三島での 8 日の日雨量は 268mm に達した。
- 1959 年 8 月 14 日 (昭和 34 年) 台風 7 号
三島の雨量は 12 日・13 日で計 263mm で、最大瞬間風速 43m/s(14 日 6 時)に達した。伊豆半島で被害が大きかったが、三島では死者 2 人、負傷者 4 人、全半壊 72 戸、床上下浸水 316 戸であり、特に中郷地区に集中している。
- 1948 年 9 月 16 日 (昭和 23 年) アイオン台風
全県下風水害、とくに中部以東で被害が大きかった。三島で日雨量 305mm。
- 1924 年 9 月 16 日 (大正 13 年)
県東部・伊豆半島で被害を生じ、三島署管内では全壊 3 戸、半壊 4 戸、床上浸水 1,323 戸、床下浸水 424 戸、冠水田畑 1,280ha、道路決壊 1.2km であった。石廊崎の最大風速 50.4m/s であり、雨量は伊豆中央部が多かった。
- 1922 年 8 月 23 日 (大正 11 年)
全県下特に県中・東部で被害が大きかった。三島署管内の被害は、床上浸水 505 戸、床下浸水 796 戸、冠水田畑 1,110ha、道路決壊 382m、橋 137m、堤防 89m、山崩 2 個所であった。
- 1920 年 9 月 30 日(大正 9 年)
沼津の最大雨量 153.5mm で、伊豆地方に被害を生じた。三島の被害は全壊 5 戸、半壊 6 戸、流失 12 戸、床上浸水 3,109 戸、床下浸水 1,533 戸、冠水田畑 1,886ha、山(崖)崩 8 個所であった。
- 1910 年 8 月 10 日 (明治 43 年)
全県下洪水、特に中・西部で被害が大きかった。中郷は全戸数 727 戸のうち浸水 441 戸(床上 325、床下 116)、田畑 48%冠水という。
- 1907 年 8 月 25 日 (明治 40 年)
東部地区に豪雨。中郷で、全戸数の 63%が浸水(床上 333、床下 119)、田畑の 39%

が冠水した。

- 1884年9月15日(明治17年)
朝から大雨となり10時～15時には風雨は最も激烈であった。そのため狩野川は洪水となった。
- 1869年8月16日(明治3年)
この日および16日後の両度、大場川出水し、新町橋が流失した。中郷の床上浸水は、御園全戸34戸、長伏11戸、安久16戸であった。
- 1859年7月23日(安政6年)未の満水
昼頃より大風雨となり、“近来まれ”な洪水となった。そのため山間の美田は多く礫地となった。
- 1858年7月22日(安政5年)
大雨、洪水となり大場川が氾濫した。家屋・田畑の被害は甚大であった。
- 1751年7月19日(宝暦元年)未の荒水
大雨、洪水山を崩して、人命を死傷した。狩野川が荒れて、特に西浦沿岸の被害が大きかった。
- 1671年9月29日(寛文11年)
大雨で狩野川氾濫し、沿岸一帯満水となった。倒壊・流失家屋や人畜の死傷も多かった。

災害事例 豪雨

- 1990年9月15日(平成2年)
前線の通過に伴い、県内全般に雨が強く降った。特に三島市では午後0時からの1時間に73mmの時間雨量を記録した。市内を流れる大場川が氾濫し、護岸堤が崩れるなどしたため、全壊1戸、半壊1戸(共に大場川への流失)、橋梁3箇所、床上浸水105戸、床下浸水296戸の被害がでた。
- 1989年7月29日(平成元年)
東部、伊豆を中心に総雨量200mmを越える大雨となった。三島では29日9時からの1時間に時間雨量72mmを記録している。三島市で東海道本線斜面で土砂崩れがあり、同線が不通となった。

災害事例 冷害

- 1825(文政8年)
夏中冷気が続いて凶作となり、加えてイナゴの害があり米質が悪くなった。そのため百姓は代官所へ納米ができなくなった。